

7 【分析6】平成21年度「基礎・基本」定着状況調査結果と平成22年度全国学力・学習状況調査結果との関係～学習内容の定着状況に改善が見られる学校の取組～

ここでは、平成21年度「基礎・基本」定着状況調査と平成22年度全国学力・学習状況調査の対象児童生徒が同一であることから両調査の関係を見た。

平成21年度「基礎・基本」定着状況調査よりも、平成22年度全国学力・学習状況調査の方が学習内容の定着状況が良くなっていると考えられる学校群の平成21年度と平成22年度の「基礎・基本」定着状況調査における学校質問紙の回答状況を比較した。(分析手順参照)

その中でも、平成21年度と平成22年度の回答状況において、「よくあてはまる」と回答した割合の差が5ポイント以上ある項目について取り上げ★で示している。(10ポイント以上の項目は★★)また、★印が小学校2教科にまたがる項目を で囲み、中学校2教科にまたがる項目を で囲んでいる。★印が小・中学校合わせて4つの教科にまたがる項目には網かけにし、グラフとして示した。

【分析手順】

平成22年度全国学力・学習状況調査は抽出方式であるため、抽出校(小学校137校、中学校121校)を対象に分析を行った。

- ① 平成21年度「基礎・基本」定着状況調査において、平均通過率が下位30%程度に含まれる児童生徒を抽出
- ② 平成22年度全国学力・学習状況調査において、平均正答率(※1)が下位30%程度に含まれる児童生徒を抽出(カットポイントは、同一教科内で両調査の人数が同程度になるように調整)
- ③ ①の人数に比べ、②の人数が3%以上減った学校(集計対象者が35人以上)を抽出(※2)
- ④ ③の学校の平成21年度と平成22年度の「基礎・基本」定着状況調査」学校質問紙の回答状況を比較

※1 平成22年度全国学力・学習状況調査の正答率は、(A問題とB問題の正答数の合計)÷(A問題とB問題の設問数の合計)で計算している。

※2 例えば、平成21年度「基礎・基本」定着状況調査において、第5学年に120名(3学級)の児童がおり、下位30%にそのうちの36名(30%)がいた学校が、平成22年度全国学力・学習状況調査では、下位30%にいる児童が33名(25.8%)に減っていたとすると、約4%の減少となり、分析の対象となる。また、対象者が少ない学校では、わずかな人数の変動で割合が大きく変わるため、集計対象者が35人以上の学校を分析の対象とした。

<小学校>

教科	調査名	カットポイント(%) <平均通過(正答)率>	児童数(人)	3%以上改善された学校数(校)	うち集計対象者が35人以上の学校数(校)
国語	H21「基礎・基本」	66.7	1,944	35	19
	H22 全国学力	80.0	2,020		
算数	H21「基礎・基本」	76.0	2,079	44	29
	H22 全国学力	61.3	2,181		

<中学校>

教科	調査名	カットポイント <平均通過(正答)率>	生徒数(人)	3%以上改善された学校数(校)	うち集計対象者が35人以上の学校数(校)
国語	H21「基礎・基本」	68.2	3,704	31	27
	H22 全国学力	68.9	3,787		
数学	H21「基礎・基本」	57.7	3,268	47	35
	H22 全国学力	42.0	3,163		

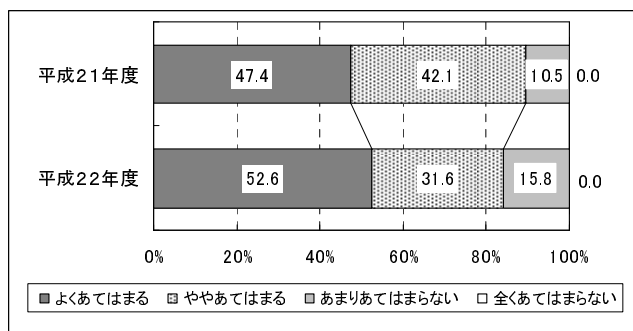
平成21年度「基礎・基本」定着状況調査時よりも、平成22年度全国学力・学習状況調査時の方が学習内容の定着状況が良くなっていると考えられる学校は、

- 思考力・表現力の育成に焦点を当てた研修を行っている。
- 様々な本や資料（図、グラフ、表を含む。）を基に自分の考えをもたせる指導をしている。

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
① 相手や目的に応じて表現の仕方を変える指導に重点を置いた。	★★	★		
② 既習内容の活用、他の文章や資料との比較、見通しや予想など、考える方法を教える指導に重点を置いた。		★		
③ 結論先行型で、根拠を挙げて自分の考えを述べたり書いたりする指導に重点を置いた。	★★	★	★★	
④ 新聞の社説等を読んで、論に賛成、反対することやディベート等を行う学習に重点を置いた。	—	—		
⑤ 自分の根拠の妥当性を検討する、自分の意見とは異なる他の意見を検討するなど考えを交流する指導に重点を置いた。	★	★	★	
⑥ ことばの教育について、計画的に研修を行った。		★	★	
⑦ 思考力・表現力の育成に焦点を当てた研修を行った。	★	★★	★★	★
⑧ 「広島県教育資料」を活用した研修を行った。			★★	
⑨ 「基礎・基本」定着状況調査報告書の指導改善事例を活用した授業研究を行った。			★★	★★
⑩ 「基礎・基本」定着状況調査報告書の分析を活用して自校のデータを分析・考察する研修を行った。			★★	
⑪ 各教科のねらいを達成するために、授業における「言語技術」の有効的な活用方法を共通理解した。				
⑫ 様々な本や資料（図、グラフ、表を含む。）を基に自分の考えをもたせる指導をした。	★	★★	★★	★
⑬ 家庭学習を計画的に行わせるような指導をした。				
⑭ 予習や復習の仕方など、家庭学習のやり方について指導をした。				

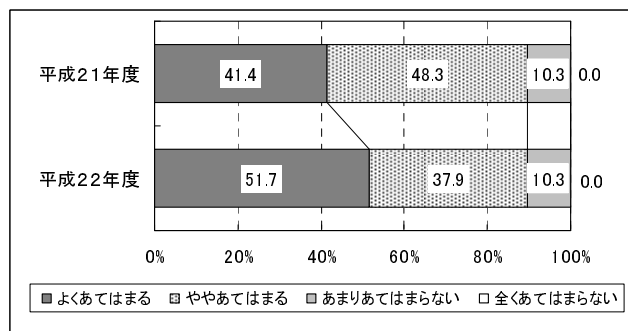
⑦ 思考力・表現力の育成に焦点を当てた研修を行った。

小学校 国語



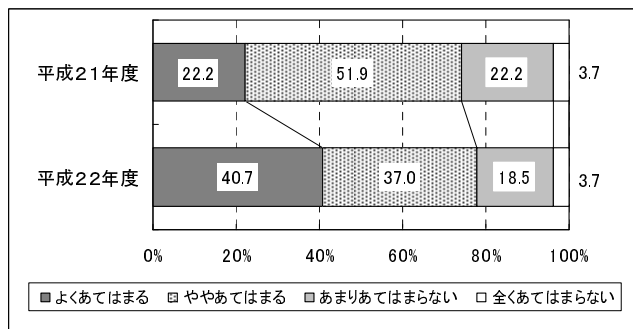
★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約5ポイントの差がある。

小学校 算数



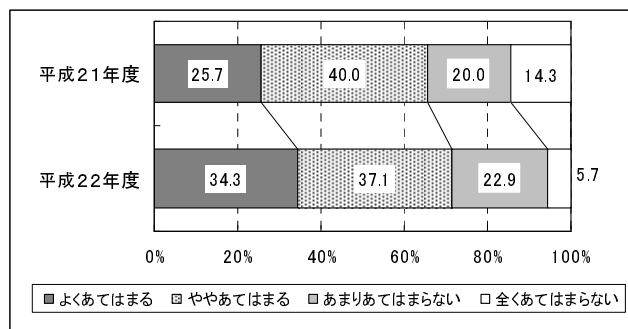
★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約10ポイントの差がある。

中学校 国語



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約19ポイントの差がある。

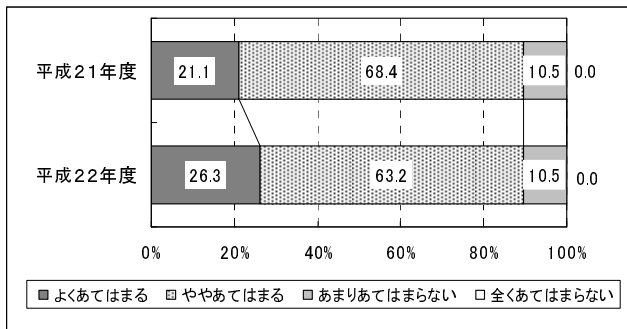
中学校 数学



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約9ポイントの差がある。

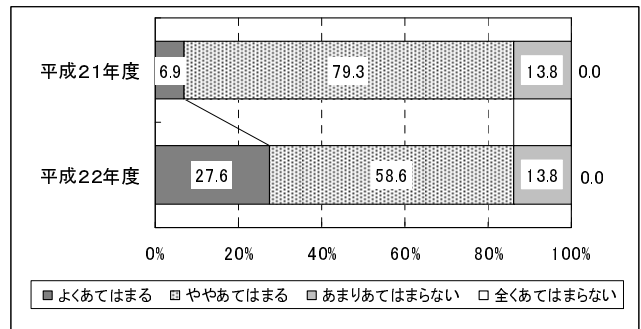
⑫ 様々な本や資料（図、グラフ、表を含む。）を基に自分の考えをもたせる指導をした。

小学校 国語



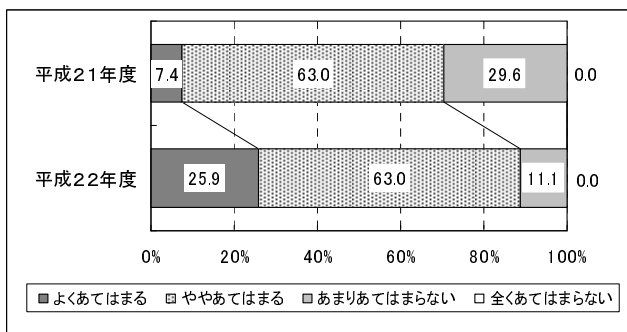
★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約5ポイントの差がある。

小学校 算数



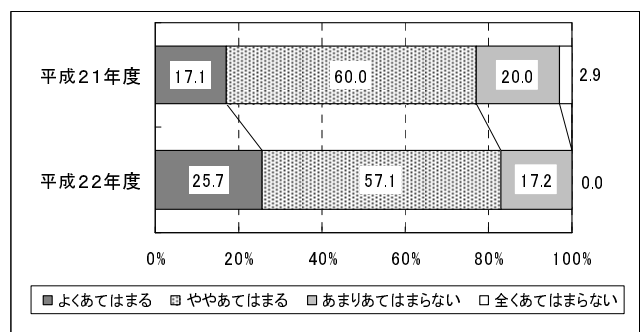
★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約21ポイントの差がある。

中学校 国語



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約19ポイントの差がある。

中学校 数学



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約9ポイントの差がある。